

主題：神の奥義の執事

メッセージ 28

キリストの配偶者としての召会——リベカの予表

聖書：創第24章、ヨハネ 3:29. エペソ 5:31-32. 啓 19:7-9. 21:2, 9-10

I. 創世記第24章は第一に啓示していますが、神の民の實行上の生活が神との一の中にあるのは、神の永遠の定められた御旨を完成するためです——エペソ1:11. 3:

11. II テモテ1:9 :

A. イサクの結婚は単に人の生活のためだけではありませんでした。それは完全に神の定められた御旨を成就するために、アブラハムの子孫である人々を生み出すためでした——創 22:17。

B. イサクのために妻を得ることにおいて、すべてのことは神のエコノミーにしたがって行なわれて、キリストを生み出し、神の王国を生み出しました——マタイ 1:1, 18, 20-21. マルコ 1:15 :

1. アブラハムは神との一の中に生きていたので、神のみこころと思いを知っており、神の内なる感覚にしたがって行動しました——創 24:3, 40。

2. アブラハムのしもべに対する言葉が示しているのは、彼が主権ある主にある信仰によって生き、神の約束の地において神のエコノミーを遂行したということです—— 6-8, 40 節。

3. しもべの祈りが示しているのは、彼がアブラハムの足跡に従い、主に信頼して、自分の責任を遂行したということです—— 12-14, 21, 42-44 節。

II. 創世記第24章はまた、イサクによって予表されるキリストと、リベカによって予表される召会の結婚の豊かな予表を提示しています——2-7, 15-16, 61-67節 :

A. このようなイサクの結婚の記述において、アブラハムは父なる神を予表し、しもべは霊なる神を予表し、イサクは子なる神を予表し、リベカは神の選ばれた民を予表します。神の選ばれた民は御子と結婚して、御子の配偶者となります——マタイ 28:19. 16:18. 22:2. 啓 19:7-9。

B. 新約全体は、三一の神が共に働いて、人の種族の一部分を得て、御子の花嫁、配偶者とならせるという記録です——ヨハネ 3:29. II コリント 11:2. エペソ 5:25-32. 啓 19:7-9. 21:2, 9-10。

C. 永遠の過去において、父なる神は永遠の定められた御旨を持ち、永遠のご計画を立てて、人の種族からご自身の御子のために花嫁としての召会を得ようとなりました（エペソ 3:9-11）。それから、時間の中で父なる神は、霊なる神にご自身のご計画を遂行するように委託しました。それは、選ばれた花嫁と接触して、彼女を彼の配偶者、彼の花嫁として子なる神に連れて来ることによりました。

III. アブラハムの子であるイサクは、キリストの予表です——創21:2-3. 24:67 :

A. イサクが、父の持っているものすべてを受け継いだことは、キリストが御父の

持っているものをすべて受け継ぐことの予表です—— 36 節. 25:5 :

1. 子とは父から出て来て、父の持っているものをすべて受け継ぐ者です。これがイサクの歴史でした—— 21:2-3. 24:36 :

a. イサクが父の富をすべて受け継いだことは、絶対に恵みの事柄でした。このことにおいてイサクはキリストの予表です—— 25:5。

b. 神が考えていたのは、イサクがアブラハムの一人息子、唯一の子孫であり、神によってアブラハムに与えられた約束を受け継ぎ、神の定められた御旨を成就するということでした (22:2, 12, 16, 18. 17:19. 26:3-4)。そのような者として、イサクは、御父のひとり子であるキリストを予表します (ヨハネ 1:14, 18. 3:16)。御父の持っているものはすべて、御父によってイサクに与えられました (35 節. 16:15)。

2. 主イエスは神の御子として、御父から出て来て、御父であるすべて、また彼の持っているものをすべて受け継ぎました—— 28, 15 節。

B. 父の富を受け継いだことに加えて、イサクは選びの花嫁を確保しました。真のイサクとして、キリストは召会、すなわち真のリベカを獲得しました——創 24:61-67. エペソ 5:31-32。

IV. リベカは、召会がこの世から選ばれたことの予表です——創 24:15, 51, 58, 63-67. エペソ 1:4 :

A. 予表において、イサクの花嫁がアブラハムの親族から選ばれたことは、キリストの配偶者がキリストの種族から来なければならないことを示しています。キリストは肉体と成って、人と成り、人性は彼の種族と成りました——創 24:3-4. ヘブル 2:14. 雅 3:11。

B. リベカの出まれた所は悪鬼の権威の下にある偶像の世でした。同じように、召会の生まれた所もまた偶像の世です——創 25:20. 使徒 26:18. コロサイ 1:13. 4:16。

C. リベカは神によって選ばれ、備えられて、イサクに与えられた人でした——創 24:14:

1. このことが予表しているのは、召会が神によって選ばれ、備えられて、召会に与えられたということです——エペソ 1:4。

2. 神はわたしたちを創造される前に、計り知れない先見性にしがって、わたしたちを選び、キリストの団体の花嫁としてわたしたちをキリストにふさわしい者としました—— 5:31-32. 啓 19:7-9. 21:2, 9-10。

D. 召会の予表であるエバは、召会がどのようにして生み出されたかを啓示しているのに対して、リベカはどのようにして召会がこの世から召し出されたかを予表しています——エペソ 1:4, 18. 4:4. ローマ 8:28, 30. 1:6. I コリント 1:2, 9, 24。

1. 神の召しは、神の選びを遂行し、成就します——エペソ 1:4, 18. I ペテロ 2:9. 5:10。

2. 予表において、アブラハムが彼のしもべをパダン・アラムに遣わしたことは、父なる神が聖霊を地に遣わしたことでした。年老いたしもべがリベカに出会

ったことは召しでした——創 24:2-4, 10, 15-24。

3. 父なる神が召会を選ぶことは、聖霊によって遂行されます:
 - a. 聖霊は神の永遠の選びを遂行しています——エペソ 1:4, 13-14。
 - b. 聖霊は召会をこの世から召し出しています——ローマ 1:6。
4. 聖霊によって召された召会はキリストと同じ種族に属さなければなりません——創 24:3-4
 - a. リベカはイサクと同じ種族に属していました。それはキリストと召会が同じ命にあずかっていることを予表しています——ヘブル 2:10-12。
 - b. 聖霊は、神の召しの対象である召会をアダムの種族から召すために来られました——ローマ 5:14, I コリント 15:22。
5. 聖霊が人を召すとき、彼の召しは環境の案配を伴います——創 24:15-17, ローマ 8:28 :
 - a. 聖霊がわたしたちを訪れ、わたしたちを召すとき、周囲の状況においてすばらしい環境の案配が起こります。これは宇宙の主の主権ある案配です——エペソ 1:11。
 - b. 聖霊が召会を召した時、環境の案配もありました。
6. 神が案配した環境にしたがってしもべがリベカに会った時、予表において彼女は聖霊の証印を受けました——創 24:22。
 - a. しもべはリベカが彼の召しの対象であると感じた時、直ちに彼女の鼻に鼻輪を付け、彼女の手腕に腕輪をはめました—— 22, 47 節。
 - b. その鼻輪と腕輪は聖霊の証印を表徴します——エペソ 1:13。
7. 創世記第 24 章 22 節における贈り物は、イサクが送り、父祖アブラハムのしもべによって与えられたものです。それが表徴するのは、神の霊がキリストの豊富を花嫁に与え、神の定められた御旨を完成するということです。これらの贈り物は、信者たちの機能と関係があります :
 - a. 金は神聖な性質を表徴し、鼻輪はその霊の初期の賜物を表徴します。その霊の初期の賜物は、その霊ご自身であり、わたしたちの永遠の分け前としての神の証印、担保、前味わいです——使徒 2:38, エペソ 1:13-14。
 - b. リベカの鼻に鼻輪をはめることが表徴するのは、霊的に、彼女の「嗅覚」の機能が神聖な性質によって捕らえられたということです——創 24:47, II ペテロ 1:4。
 - c. リベカの手腕に腕輪をはめることが表徴するのは、神聖な機能を受けて、キリストのからだの中で奉仕するということです——創 24:22, ローマ 12:4-8。
8. しもべがリベカと出会った日、彼はイサクのために証ししました。これは聖霊がキリストを証しすることを表徴します——創 24:36, ヨハネ 15:26, 16:13-14。
9. リベカに与えられた金の鼻輪と腕輪、銀と金の飾り、衣服、また彼女の兄と母に与えられた貴重な品々は、キリストの計り知れない豊富を象徴します——創 24:53, エペソ 3:8 :

a. しもべはリベカに、イサクの富について証ししました。それはイサクが父から受け継いだものであり、これらの富の一部を前味わいとしてリベカに与えました。これはリベカがイサクに引き付けられるようにし、また彼女が進んで父の家を離れてイサクの妻になるようにさせました——創 24:35-36, 58。

b. 同じように、その霊もキリストの信者に来て、キリストの豊富について彼らに証しします。それは彼が御父から受けたものであり、彼らがキリストを見たことがないにもかかわらず、彼らをキリストに引き付け、また彼を愛し、この世を放棄し、肉における天然の関係を離れてキリストに結合させます——ヨハネ 16:13-15. マタイ 10:37-39. 19:29. I ペテロ 1:8。

10. 創世記第 24 章 58 節のリベカの応答は、召会と個々の信者が進んで受け入れることを予表します：

a. リベカは慎み深く、優しく、勤勉であり、またイサクを自分の夫とするという決心において絶対的であり、彼に服従していました—— 16, 57-58, 61, 64-65。

b. 彼女はそのようなものとして、キリストの花嫁、妻としての召会の卓越した予表です——ヨハネ 3:29. エペソ 5:31-32。

E. リベカは召会の予表として、召会がこの世から選ばれていることについてだけでなく、召会の旅についても語っています——創 24:61-64：

1. 召会は神によって選ばれ、分離され、召された後、長い旅をしなければなりません——マルコ 6:45-51. ヘブル 12:1。

2. 人は召された後、長い旅路を進むように運命づけられています。

3. リベカは長い旅をし、イサクは短い旅をしました——創 24:63-65：

a. 召会は長い旅をし、キリストは短い旅をします。

b. 召会が長い旅を終えるとき、キリストは来て召会を迎えます。

c. リベカが到着した夕暮れに、イサクは天幕から出て、野に行きました。これが表徴していることは、この時代の終わりに、キリストは来て、彼の配偶者と会われるということです—— 63 節。

F. リベカはイサクを見た時、ベールを取って、身を覆いました—— 65 節：

1. 霊的に、これが表徴していることは、その時点からリベカは自分自身をイサクにささげたということです。以前、彼女は自分自身の人生を生きていましたが、その時点から、イサクの下で自分の人生を生きました。

2. 彼女が頭を覆ったことが示しているのは、彼女が終わらせられ、完全にイサクにささげられたということです：

a. 彼女はイサクの下で、イサクの中で生き、イサクとミングリングしました。

b. リベカの頭のおおいは、彼女が権威の下に来たことを示しているだけでなく、彼女が身を覆い、存在しなくなったことをも示しています—— I コリント 11:7-12。

c. リベカとイサクはもはや二人の人ではなく、一人の人でした——創 2:24。

- G. アブラハムの子であるイサクは何も行ないませんでしたが、花嫁を受け入れました。これが表徴していることは、すべてのことは御父によって計画され、その霊によって達成され、御子はただ花嫁を受け入れるだけであるということです—— 24:67。
- H. イサクがリベカを夕暮れに受け入れたことが表徴しているのは、キリストの婚姻がこの時代の夕暮れに、すなわち終わりにあるということです—— 63, 67 節：
1. イサクはリベカを、彼の母サラの天幕に迎え入れ、リベカを愛しました。これが表徴していることは、キリストが花嫁を、恵み（サラによって予表される）の中で、また愛の中で受け入れるということです—— 67 節。
 2. イサクはリベカと結婚した後、慰められ、満足しました。同様にキリストも、彼の婚姻の日に満足されます——啓 19:7-9。